

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 特定非営利活動法人

中学・高校生の日本語支援を考える会

1. 事業名称

外国にルーツを持つ児童生徒を未来につなぐ日本語学習支援事業

2. 事業の目的

- ①横浜市とその近隣に在住する外国につながる児童生徒が、生活面でも学習面でも自立できるように日本語教室を設置、運営し日本語・教科支援を行うこと。
- ②日本語指導者を対象として、支援に必要な知識や有用なスキルや教材などのアイデアを理論面・実践面双方から得、子ども達の目線に立った支援ができる指導者を養成すること。
- ③特にフィリピンの子が対象となるが、英語の助けを借りて自主学習ができるような学習教材を作成し、日本語習得だけでなく今まで培ってきた英語を忘れず、さらにブラッシュアップすることで文化的な生活を送る手助けをすること。

3. 事業内容の概要

- 1、毎週水曜日の放課後に補習教室を開催し、学校生活面でのフォローや学習面での補習を行う。
- 2、8月4日から全 12 回(総時間数 32 時間)に亘り、研究者から各専門分野の知識を学ぶと同時に、さまざまな立場の実践者からさまざまなアイデアを得、意見交換をしながら、自らの指導に活かしていける実践的な講座を行う。
- 3、日本で生活していく上で必要な日本社会の基礎知識や事情、また日本の伝統文化や習慣などを“やさしい日本語”で説明し、さらにここ数年急速に増えてきたフィリピンの児童生徒等にとって、既習の言語である英語の訳を付け、自主学習ができる教材を作る。一部については指導者講座を受けた受講生が講座の成果として原稿作成に関わる。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開催日時	時間	開催場所	出席者	議題	検討内容
1	平成24年8月3日	3時間	かながわ県民センター	ヤマダ キョコ ベッティ 中村ノーマン 樋口万喜子 細野尚子 頼田敦子	・日本語教室の実施状況 ・研修講座のシラバスと受講生の募集方法について ・教材の概要と作成計画について	・教室の生徒の学習状況・今後の予定 ・講座日程とシラバスの内容検討・受講生の募集方法、 ・教材のテーマと具体的内容・研修講座との連携について

2	平成 24 年 10 月 27 日	2 時 間	かながわ 県民セン ター	ヤマダ キョ コ ベッティ 中村ノーマン 樋口万喜子 細野尚子 頼田敦子	・日本語教室の現状 ・後半の講座内容と公開講座等の状況について ・教材形式確認	・公開講座の成果をデータ化し、講義者のチェックを経て受講者に紙媒体で配布。 ・教材サンプルを基に、形式の基準作成、全体の整合性を考える。
3	平成 25 年 2 月 24 日	2 時 間	かながわ 県民セン ター	中村ノーマン 樋口万喜子 細野尚子 頼田敦子	・日本語教室のまとめ、 ・講座の振り返り アンケートから今後のフォロー ・教材最終確認	・教室の生徒たちの進路 ・講座全体を振り返っての反省と成果の確認 ・アンケートから研修後の発展のしかた、展開方法について話し合う ・教材印刷依頼前の最終チェック

【写真】



5. 日本語教室の設置・運営

- (1) 「未来へつなぐ」日本語を母語としない中学生の補習教室
- (2) 目的・目標 横浜市とその近隣に在住する外国につながる児童生徒が、生活面でも学習面でも自立できるように日本語教室を設置、運営し日本語学習支援を行うこと。
- (3) 対象者 横浜市及び近隣に在住する日本語を母語としない中学生。
- (4) 開催時間数(回数) 60 時間 (全 30 回)
- (5) 使用した教材・リソース: 自主教材、小学校教科書『国語五 銀河』・『国語六 創造』、中学校教科書『国語 1』・『国語 2』(以上、光村図書 平成 24 年 2 月 5 日発行)、『新しい国語 2』(東京書籍 平成 24 年 2 月 10 日発行)
- (6) 受講者の総数 16 人
(出身・国籍別内訳 中国 9 人 フィリピン 4 人 インド人 2 人 ドミニカ人 1 人)
- (7) 受講者の募集方法

横浜市の日本語講師などに、学校以外でも日本語指導が必要で、地域のことや日本社会に関心を持ち日本文化に興味のある生徒に声をかけてもらう。

(8) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍(人数)	取り組みのテーマ	授業概要
1	2012/7/4 16:30～18:30	2h	8	中国(6)、フィリピン(2)	日本の歳時記と学校行事、日本語	カレンダーを用意し、家族の誕生日やイベントのあった日にチェックを入れ、その日の行動や様子を話したり書いたりする。支援者は適宜歳時記を説明する。
2	2012/7/11 16:30～18:30	2h	9	中国(7)、フィリピン(2)	日本の自然 位置と地形、日本語	地図を用意し、日本の位置と地形を教える。その表現を使って、学習者の母国の位置や地形も話したり書いたりさせる。
3	2012/7/18 16:30～18:30	2h	11	中国(8)、フィリピン(3)	日本の自然 四季と気候(1)、日本語	日本の季節の変化やその楽しみ方や夏、冬を快適に過ごす工夫を教える。母国の気候や、その暑さ寒さを楽しんだり避けたりする方法を話したり書いたりする。
4	2012/7/25 16:30～18:30	2h	10	中国(7)、フィリピン(3)	日本の自然 四季と気候(2)、日本語	地方による気候の違いを説明し、学習者の母国の気候と対比させる。梅雨・台風・地震に関連した言葉や表現を練習し、その対処方法などを話し合う。
5	2012/8/29 16:30～18:30	2h	11	中国(7)、フィリピン(2)、インド(2)	都道府県と地域区分、日本語	都道府県と地方区分の教材で、読み方を練習する。新聞を用意し、記事に出てきた都道府県の場所を確認する。
6	2012/9/5 16:30～18:30	2h	12	中国(7)、フィリピン(3)、インド(2)	日本の首都、東京、日本語	首都東京の歴史的建造物や新しい名所スカイツリーについて説明する。学習者は母国の歴史的建造物や観光名所について話したり、書いたりする。
7	2012/9/12 16:30～18:30	2h	11	中国(8)、フィリピン(3)	私たちの神奈川(1)、日本語	神奈川県的位置や地形について教える。横浜市の歴史や産業を表わす言葉や表現を、観光パンフレットを見ながら確認する。行ったこと聞いたことがあれば、その経験を言ったり書いたりする。
8	2012/9/19 16:30～18:30	2h	13	中国(9)、フィリピン(4)	私たちの神奈川(2)、日本語	小田原城・鎌倉の大仏を説明したり、三崎漁港や京浜工業地帯、箱根や芦ノ湖を説明したりするための言葉や表現を教える。
9	2012/9/26 16:30～18:30	2h	12	中国(9)、フィリピン(3)	浮世絵・水墨画、日本語	浮世絵・水墨画の画像を見せ、説明に必要な言葉や表現を教え、その練習をする。
10	2012/10/3 16:30～18:30	2h	11	中国(8)、フィリピン(3)	温泉、日本語	温泉の画像を見せ、説明に必要な言葉や表現を教え、その練習をする。

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

11	2012/10/10 16:30～18:30	2h	13	中国(9)、フィリピン(4)	歌舞伎・文楽、日本語	歌舞伎・文楽の画像を見せ、説明に必要な言葉や表現を教え、その練習をする。
12	2012/10/17 16:30～18:30	2h	12	中国(8)、フィリピン(4)	華道・茶道・書道、日本語	華道・茶道・書道の画像を見せ、説明に必要な言葉や表現を教え、その練習をする。
13	2012/10/24 16:30～18:30	2h	13	中国(9)、フィリピン(4)	武道・着物、日本語	武道・着物の画像を見せ、説明に必要な言葉や表現を教え、その練習をする。
14	2012/10/31 16:30～18:30	2h	13	中国(9)、フィリピン(4)	相撲、日本語	相撲の説明に必要な言葉や表現を教え、その練習をする。
15	2012/11/7 16:30～18:30	2h	11	中国(8)、フィリピン(3)	短歌、日本語	短歌の説明に必要な言葉や表現を教え、その練習をする。
16	2012/11/14 16:30～18:30	2h	12	中国(8)、フィリピン(4)	百人一首、日本語	百人一首の説明に必要な言葉や表現を教え、その練習をする。
17	2012/11/21 16:30～18:30	2h	12	中国(8)、フィリピン(4)	俳句、日本語	俳句の説明に必要な言葉や表現を教え、その練習をする。
18	2012/11/28 16:30～18:30	2h	13	中国(9)、フィリピン(4)	文化とは？ 読み物「文化を伝えるチンパンジー」1	自分の国の「文化」といえるものを紹介する。文化とは何か、考える。
19	2012/12/5 16:30～18:30	2h	12	中国(8)、フィリピン(4)	文化とは？ 読み物「文化を伝えるチンパンジー」2	チンパンジーの道具の使い方を観察した文を読み、文化とは固有のものでありながら、変容していくことを学び、自分の生活に照らし合わせてみる。
20	2012/12/12 16:30～18:30	2h	13	中国(9)、フィリピン(4)	読み物「食の世界遺産 鯉節」1、日本語	鯉節に関する文を読み、その言葉や表現を知る。鯉節を題材に伝統的な食文化について知識を得る。
21	2012/12/19 16:30～18:30	2h	12	中国(8)、フィリピン(4)	読み物「食の世界遺産 鯉節」2、日本語	中国の乾鮑、蝦米などの乾貨、ヨーロッパの干し肉、日本の乾燥食材について、その作り方や料理法、味やその食にまつわる経験を自由に話し合う。
22	2012/12/26 16:30～18:30	2h	12	中国(8)、フィリピン(4)	読み物「ダイコンは大きな根？」1、日本語	日本の野菜の名や、母国の野菜の名をあげ、その特徴やそれを使った料理について、話したり書いたりする。
23	2013/1/9 16:30～18:30	2h	13	中国(9)、フィリピン(3)、ドミニカ(1)	読み物「ダイコンは大きな根？」2、日本語	身近な野菜の意外な側面を紹介する文を読んで、その言葉や表現を知る。
24	2013/1/16 16:30～18:30	2h	13	中国(9)、フィリピン(3)、ドミニカ(1)	読み物「『鳥獣戯画』を読む」1、日本語	マンガの魅力や、自分の好きな漫画をみんなに紹介する。マンガの祖と言われる『鳥獣戯画』の絵を見て、感じたことや絵から読み取れることを話し合う。
25	2013/1/23 16:30～18:30	2h	13	中国(9)、フィリピン(4)	読み物「『鳥獣戯画』を読む」2、日本語	『鳥獣戯画』の一場面を説明する文章を読んで、「評価を表わす言葉や表現」を学び、他の絵や音楽で実践する。
26	2013/01/30 16:30～18:30	2h	12	中国(8)、フィリピン(4)	読み物「ゆるやかにつながるインターネット」、日本語	インターネットを利用する際に注意すべきことを話し合う。箇条書きに書いて、まとめる。インターネットに関する言葉や表現を学ぶ。
27	2013/2/6 16:30～18:30	2h	12	中国(8)、フィリピン(4)	読み物「やさしい日本語」1、日本語	パンフレット「やさしい日本語」を読む。 http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ1a.htm
28	2013/2/13 16:30～18:30	2h	13	中国(9)、フィリピン(4)	読み物「やさしい日本語」2、日本語	「やさしい日本語」がどのような目的を持って作られ、どのような効果があるか話し合う。話し合いの内容を箇条書きにする。
29	2013/2/20.. 16:30～18:30	2h	9	中国(7)、フィリピン(2)	身近な地域の産業 しらす & かまぼこ	身近な地域でとれる農産物や水産物を知ることができる。近隣の市や町の広報、市の紹介、観光案内を見て、その特徴を知る。
30	2013/2/27 16:30～18:30	2h	9	中国(7)、フィリピン(2)	日本のお祭り	神奈川の祭りやその伝統を守っている地域の人々のことを理解する。住民としてのつながりの大切さを知る。また、目的地的に行く手段を確認する。



第20回 12月12日 読み物「食の世界遺産 鯉節」

出席者 中国人9人、フィリピン人4人

イメージをつかむ

1.これは、何だろう。（食文化に興味を持たせる）

鯉節と削り節を見せ、名前を問う。⇒「鯉節」の名前を知っていたのは一人だけであったが、削り節の方は名前は知らないが、お好み焼きや焼きそばにかけて食べたことがあるという生徒が数人いた。

2.するめ、乾鮑、ビーフジャーキーを用意し、その特徴や共通点を話させる。

共通点：硬い、乾燥している、酒のつまみ、生の時と味も見た目も違う。



体験・行動する

1. どうやって作るのか、考えてみよう（参照：『鯉節博物館』<http://www.daiyan.jp/>）

鯉節が出来上がるまでの工程をイラストに描いたカード6枚1セットを、生徒に配布。どのような手順で鯉節が製造されるか考えて、並べさせる。

『食の世界遺産-鯉節』を読もう。

- ①わからないことばに線を引かせる⇒ おろす・うろこ・すのこ・まき・たく・桶・いぶす・はえる
はけ・びっしりと生える

（指導者が「三種の神器」を説明しようとする、ゲームなどで既知であった）

- ②「(鯉を)おろす」場面や「すのこ」、「まき」、「はけ」などの画像を見せたり、「いぶす」「生える」「炊く」などの動詞の意味や使い方を説明する。

「肉まんを蒸す」と「いぶす」はどう違うか質問が出て、「蒸す」は湯気で、「いぶす」は煙をあてて加工することだと説明。スモークチーズ、スモークサーモン、スモークハム・・・と例を挙げ、燻製によって様々な国で保存性の高い食品を作り上げていることを説明する。（食文化の多様性と共通性の確認）

- ③「鯉節ができる工程」の説明文を読んで、6枚並べたイラストのカードの順が正しかったかどうか、確認する。

2. 作られ続けられる理由を、読み物を読んで考えよう。

- ① 鯉節菌の働きでアミノ酸などの「うま味」成分は残るが、脂分はなくなるというだしが、江戸時代から作られてきた。
- ② 保存食として優れており昆布椎茸とともに懐石などの日本料理を生んできた。次に生徒に中国のだし・フィリピンのだしの取り方をきく。椎茸・貝柱・豚肉・鶏肉などが上がった。

3. カビの性質を見抜いて作られた鰯節は、江戸時代からの遺産と言ってもよい。
それぞれの国の人たちの知恵の結晶ともいえる食品を伝承していくことは大切である。
→食生活、精神的な豊かさにつながる。

ことば・表現を知る

- 1、難しい言葉のワークシートを作る。
2、次の第 21 回で、この読み物『食の世界遺産-鰯節』の復習テストを行って、漢字を定着させる。
※なお、次の第 21 回で鰯節製法の工程を、短文7文(最初と最後の文は固定して)で表し、順序をばらばらにして学習者に与えた。接続語や内容を頼りに、7 文を正しく並べ替えさせる問題で、7 割の生徒は、正しく並べ替えられたので、言葉の意味やそのつながり表わす表現などを正確に理解していることが分かった。

(10) 目標の達成状況・成果

・目標は「横浜市とその近隣に在住する外国につながる児童生徒が、生活面でも学習面でも自立できるように日本語教室を設置、運営し日本語学習支援を行うこと」であった。外国人が 3 割を占める中学校では、一人一人に向き合うのは難しいが、この補習教室では、それらの中学から来ていた生徒にも講師やボランティアが個別に生活や学習の支援ができたため、来日 1 年に満たない生徒も全員高校に入学できた。また、家庭では教えることが難しい日本文化や行事、地理や気候の特色、そして地域のイベントや施設の案内ができたことは有意義なことであった。成果物として教材を小冊子として残せたことも、今後、様々な場面で役立つだろう。

(11) 改善点について

- ・本事業の委託決定から補習教室開催まで、わずか 10 日しかなかったため、準備が不十分な面もあった。
・夏休みや冬休みは、外国人の子どもにとっては地域との結び付けを強くする良いチャンスなので、補習教室の講師やボランティア以外の人とも接する機会を設けることが必要であったろう。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

- (1) 講座名称 「外国人日本語指導者とともに学ぶ日本語指導研修講座

～子どもの学ぶ力と心の成長を支えるために～」

- (2) 目的・目標 横浜市とその近隣で日本語・教科支援を行っている外国人日本語指導者及び日本人指導者を対象として、外国につながる子どもたちを取り巻く言語環境、支援において必要な知識と取り組む姿勢、さらに実践で役に立つスキルや教材などのアイデアを理論面・実践面双方から得、子ども達の目線に立った支援ができる指導者を養成すること。

- (3) 対象者 横浜市とその近隣で日本語・教科支援を行っている外国人日本語指導者及び日本人指導者

- (4) 開催時間数(回数) 38 時間 (全 12 回)

(5) 使用した教材・リソース

『にほんごだいすき』シリーズ 鈴木重幸・工藤真由美・小高愛 むぎ書房
 『にほんごをまなぼう』1～3 文部省 ぎょうせい
 『国語』 光村図書5年上 光村図書中学1年
 『社会』 光村図書5年
 『外国人児童・生徒を教えるためのリライト教材』 光元聰江 ふくろう出版
 『JSL 中学高校生のための教科につなげる学習語彙・漢字ドリル』 NP0 中学高校生の
 日本語支援を考える会編 ココ出版
 『進学を目指す人のための教科につなげる学習語彙 6000 語』 NP0 中学高校生の日本語
 支援を考える会編 ココ出版

(6) 受講者の総数 30 人

(出身・国籍別内訳 日本 21 人 中国 5 人 韓国 3 人 メキシコ 1 人)

(7) 受講者の募集方法

(ア)運営委員のヤマダ キヨコ ベッティ(横浜市教育委員会指導主事助手)より横浜市の国際教室担当教諭、横浜市日本語講師にチラシ(別紙参照)を送付。

(イ)川崎市、大和市、藤沢市、厚木市、横須賀市、相模原市、の各教育委員会担当部署に講座の趣旨、内容を連絡し、日本語指導員へのチラシ配布を依頼。

(ウ)「かながわ多文化子ども支援ML」、(財団法人かながわ国際交流財団 多文化共生・協働推進課)、「kodomo-ml」(中国帰国者定着促進センター教務部)、「Yokohamakokusai」(横浜市外国人教育連絡協議会:横浜市立の小中学校の国際教室担当者が中心メンバー)などのメーリングリストで受講生募集。

(エ) ホームページに募集記事を掲載 <http://www003.upp.so-net.ne.jp/nihongosien/>

(8) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	参加人数(人)	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名
1	平成 24 年 8 月 3 日 13:30～ 16:40	3 時間	25	日本(18) 中国(3)、 韓国(3)、 メキシコ(1)	・外国につながる子どもの現状と課題 ・楽しく学習させるための日本語教材	・多文化教育の視点から、外国につながる子どもの現状と課題を教える。 ・子どものレベルに合わせた教材とはどのようなものか具体例を示し、実践する。	樋口 万喜子 頼田 敦子
2	平成 24 年 8 月 10 日 13:30～ 16:40	3 時間	20	日本(16)、 中国(2)、 韓国(2)	教科へつなげるための日本語指導	標準的カリキュラム案で扱う生活上の行為の事例「災害に備え対応する」事項から、避難訓練や災害時の対応等に関する日本語指導を教える。	古屋 恵子

3	平成 24 年 8 月 24 日 13:30～ 16:40	3 時 間	48	日本(38)、 中国(5)、 韓国(3)、 フィリピン (1)、 ベトナム (1)	【公開講座】 ・「見えない」子ども たちへの支援を考 える ・母語を大切にした 日本語支援	・ニューカマーの子どもたちの変遷 から教室で同化し見えなくなってい る要因と子どもたちの多様化、これ からの支援に必要な視点を示す。 ・現状と課題、そこから考えられる適 切な教育とは何かを教える。	高橋 朋子 中村 ノーマ ン
4	平成 24 年 9 月 9 日 10:00～ 12:00	2 時 間	49	日本(45)、 中国(2)、 韓国(1)、 メキシコ(1)	【公開講座】 多文化ソーシャルワ ーク的支援	子どもたちへの多様な支援の協力・ 連携を示す。豊橋市における支援の 体制、エコマップから求められるもの を教える。	築樋 博子
5	平成 24 年 9 月 9 日 13:00～ 15:00	2 時 間	50	日本(45)、 中国(3)、 韓国(1)、 メキシコ(1)	【公開講座】 多文化ソーシャルワ ーク的支援(ワーク ショップ)	あなたが日本語指導の担当者として 生徒(小学生A／中学生B)に関わ るとしたら、どんな指導をしますか？ 誰がどう関わるといいますか？	築樋 博子
6	平成 24 年 9 月 23 日 13:30～ 16:40	3 時 間	25	日本(17)、 中国(5)、 韓国(2)、 メキシコ(1)	『にほんごだいす き』を使ったワーク ショップ	教科学習につながる一聞ける、話せ る、読める、書ける一日本語教育の ためにテキストの使い方を教える。	小高 愛
7	平成 24 年 10 月 7 日 10:00～ 12:00	2 時 間	39	日本(32)、 中国(4)、 韓国(2)、 メキシコ(1)	【公開講座】 教科書と共に使え るリライト教材につ いて	リライト教材、音読譜とは何かを教え る。その有用性、教材研究や課題設 定の重要性を教える。	光元 聰江
8	平成 24 年 10 月 7 日 13:00～ 15:00	2 時 間	37	日本(30)、 中国(4)、 韓国(2)、 メキシコ(1)	【公開講座】 リライト教材を作っ てみよう(ワークショ ップ)	作成時の留意点を教え、教材の「ね らい」「めあて」を設定した上でのリラ イト教材の作成を教える。	光元 聰江
9	平成 24 年 10 月 14 日 13:30～ 16:40	3 時 間	26	日本(19)、 中国(4)、 韓国(2)、 メキシコ(1)	・外国につながる子 どもの高校入試の 現状 ・国際教室との連携	・神奈川県公立高校入試の現状に ついて教える。 ・国際教室での学びの実態と居場所 としての機能、連携のとり方につい て教える。	土屋 隆史 林宝愛
10	平成 24 年 10 月 28 日 13:30～ 16:40	3 時 間	26	日本(17)、 中国(5)、 韓国(3)、 メキシコ(1)	・母語で支える子ど もの学力と心の成 長 ・教科学習支援のた めの教材作り	・母語による教育支援活動やそこか ら見えた課題、学力の向上と心の成 長における母語の役割について教 える。 ・教材作りのねらいやポイントについ て教える。	李原翔 細野 尚子
11	平成 24 年 11 月 11 日 9:30～12:00	3 時 間	24	日本(16)、 中国(5)、 韓国(3)	バイリンガルの子供 たちの言語習得	バイリンガルの子どもの2つのタイプ の言語能力、日本語とはどんな言語 か、個人差が生まれる要因、様々な	西川 朋美

	40					視点から見る必要性について教える。	
12	平成 24 年 11 月 18 日 13:30～ 16:40	3 時 間	26	日本(17)、 中国(5)、 韓国(3)、 メキシコ(1)	・コースデザインの 概要 ・教科学習支援のた めの教材作り～発 表～	・子どもたちのライフコースを意識し て指導計画、コースデザインをたて ることを教える。 ・日本の行事と文化、神奈川県内の 市に関する教材発表	樋口 万喜子 細野 尚子

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)



2012 年 9 月 9 日 (日) 10:00～12:00 (第 4 回) 13:00～15:00 (第 5 回)

第4回『子どもたちへの多様な支援の協力・連携を考えよう

～多文化ソーシャルワーカー的な視点から～

講師:愛知県豊橋市教育委員会 築樋 博子

1. 豊橋市の現状・概要

- 1) 外国人児童生徒の在籍数の推移・国際教室設置校数
- 2) 豊橋市教育委員会独自の取り組みについて(翻訳文書、通訳派遣、初期指導体制、漢字圏の児童への初期指導例、非漢字圏の児童への初期指導例)

2. 多文化ソーシャルワーカー的視点

- ・外国人の子どもの困難を解決するために、子どもの発達、臨床心理学的、ソーシャルワーカー的視点が必要。
- ・講師の考える「学校における多文化ソーシャルワーカー」とは成長・発達過程にある子どもであることや外国人であることで被る教育機会の社会的に不公平な状況を改善していくことに焦点をあて、対人援助を行う人材。
- ・「エコマップ」～家族や子どものストレス状況に焦点をおき、家族メンバーに影響を及ぼす社会環境との関係性を表示するもの。人間関係や社会資源関係のネットワークを視覚的に把握できる。

3. ケース検討(グループワーク)

- 1) 中2で来日したA子の問題について家庭・学校の状況とともに説明。
- 2) A子のケースについて問題解決のために関われる機関や支援策についてエコマップを描き考える。
- 3) グループで話し合ったことを発表→ 関われる機関や支援策についてのまとめ
- 4) 質疑 連携について、入試制度や対策について、エコマップは評価に使えるか等

第5回『子どもたちへの多様な支援の協力・連携を考えよう』

～多文化ソーシャルワーカー的な視点から～ワークショップ

愛知県豊橋市教育委員会 築樋 博子

I. ケースの説明 9歳で来日。本国では学齢相応の学習を積んできた。小学校3年に編入、現在は中学1年。日常会話は問題ないが、文字の読み書きは小学2、3年レベル。母と弟の3人家族。母親は日本語が少ししか分らないが、弟は母語をほとんど理解できない。本人は母の言うことは多少理解できるが、母語で答えるのは面倒で、最近では母とほとんど会話をしない。2学期から不登校になっている。

II. 対象生徒Aについての質疑+参加者で対象生徒人物像を構築する

III. <グループでの話し合い①> エコマップを描き、Aに誰がどのように関わるかを話し合う。

→中学校の担任教諭、部活の顧問教諭、部活の友だち、国際教室の先生、通訳、養護教諭、管理職、生徒指導主事、地域の学習支援・日本語教室など、また関係者同士の連携を強める必要あり。

<グループでの話し合い②> 対象生徒Aへの日本語指導コースプランを話し合う

小学生グループ:4年生9月-3月の時期に戻り、Aへの日本語指導プランを考える。

中学生グループ:9月-3月の日本語指導プランを考える。

★講師作成の教材表及び教材についての説明

IV. まとめ

今後日本語指導の実施に当たっては個別指導計画を作成し、児童生徒の実態に合った目標設定と目標達成に向けた実践が求められる。個別指導計画作成時には、児童生徒の発達段階を視野に入れ、日本語の4技能のバランスを考慮する必要がある。

(10) 目標の達成状況・成果

アンケート(添付資料)にもあるように、日ごろ行っている指導の実態と照らし合わせて研修講座の内容を理解し、つなげていこうという姿勢が多々見られたことは評価できると考える。

また、具体的な教材を用いた実践を行うことで、今後の指導にすぐ応用できる内容であったし、今回の事業の特長でもある講座と教材作成との連携という観点から、ワークショップの成果をすぐに教材の形にしたことで、受講生に協働や実践の意義を実感してもらえたのではないかと考える。最終回に行った各自の教材発表会は受講生皆さんの達成感を得ることにつながったと考える。

(11) 改善点について

●今回の研修講座を通して横浜市及び近隣の日本語指導員のネットワーク作りの第一歩ができたと思う。今後もこのつながりを生かし、教材や指導法等の勉強会の開催を行い更なる支援を行っていきたいと考える。

●テーマによっては、設定された時間では不十分であるという声が聞かれた。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称 「日本の文化、行事 神奈川の地域紹介」

(2) 対象 来日3年以内で、日本語での社会の学習(日本の地理や歴史)に困難があるが、英語を介して内容を理解することが可能な学習者。

(3) 目的・目標 日本の地理的な基礎知識や日本の伝統文化や習慣などをわかりやすい日本語で説明し、英語の助けを借りて自主学習ができる教材を作成すること。また、日本語習得だけでなく今まで培ってきた英語を忘れず、保持することで自尊心を持たせたり、アイデンティティの確立につなげたりして、文化的な生活を送れるよう手助けをすること。

(4) 構成 4部構成で、①行事を歳時記で紹介②10項目の日本の文化紹介③神奈川県、居住外国人が多い16市を、その地域での生活に役立つ情報や、歴史・文化・産業の面から紹介④日本の自然環境や暮らしの特徴を紹介している。

(5) 使い方 読み物として読んだり、地図帳で位置を確認したりデータで裏付けたりする。

(6) 具体的な活用例 (詳細は別添の教材に添付)

①取り上げる項目について、写真やイラストによって具体的なイメージを持つ。

②取り上げる項目について、色を塗ったり、線で結んだりする活動シートで日本語を学んだり、日本の文化や地域性のある事柄に興味を持つ。

③取り上げる項目に関連した新たな知識や発展した活動を、実際にネット検索して確認したり活動シートに表したり、発表したりする。

(7) 成果物の添付 (別添)

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

①横浜市とその近隣に在住する外国につながる児童生徒が、生活面でも学習面でも自立できるように日本語教室を設置、運営し日本語・教科支援を行うこと。②日本語指導者を対象として、支援に必要な知識や有用なスキルや教材などのアイデアを理論面・実践面双方から得、子ども達の目線に立った支援ができる指導者を養成すること。③特にフィリピンの子が対象となるが、英語の助けを借りて自主学習ができるような学習教材を作成し、日本語習得だけでなく今まで培ってきた英語を忘れず、さらにブラッシュアップすることで文化的な生活を送る手助けをすること。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

①他事業との連携

横浜市教育委員会の日本語指導者の研修会事業と連携し、年少者日本語教育の研究者の視点を入れて研修内容を吟味し、児童生徒のきめ細やかな指導に求められるものを加えた。講師から日ごろの研究成果を教授されることで、受講者である日本語指導員のブラッシュアップ研修となった。

②研修後の人材活用

受講生は、すでに日本語指導員や教員として外国につながる児童生徒の指導に関わっている方々であるので、研修講座の成果としてすぐにリライト教材や、初期指導に有効な教材等の実践をし、それを受講生間で共有するなどの動きが出てきた。

このような現場発信の実践的な取り組みを続け、受講生のネットワークで共有し、来年度もさらにその輪を広げていきたいと考える。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

カリキュラム案の「地域社会に参加する」というテーマに沿ったものとして「祭り」を教材とし、神奈川の祭りの中でも中華街で毎年旧正月（春節）に行われる春節祭を取り上げた。中国文化では祝い事に獅子舞は欠かせないが、中華街にある大陸系の中華学校（横浜山手中華学校）と台湾系の中華学校（横浜中華学院）が協力して行っている。

日本の祭りではないにせよ、日本語学習者にとっては、地域の祭りとして地域のルールに従って行う必要があり、催し物の場所や時間等を把握してそれらの情報を発信する側にも立つ。伝統があり、集客力もある祭りを、伝えていくことの大切さを感じれば、居住する地域の日本の祭りにも同様に興味を持ったり参加したりすることが予想される。

取り上げる行為の事例で(35)「地域社会に参加する」にかかわる「行事の内容や事情を理解する」「地域のお祭りなどに参加する」「日程や場所等を把握する」は、口頭で発表させたり、手順を考えさせる等活用できた。

今年は毎日新聞神奈川地方版に春節の話題が取り上げられた。上記二校は、かつてはいがみ合ったり張り合ったりしていたが、今では協力して祭りを盛り上げ、回を重ねるごとに祝い事とともに祝うことに慣れてきたというものである。新聞記事を読んで、現在の形になるまでの事情、苦労を知る事ができた。そして国としての体制や考え方が異なっても、一つのことを成し遂げるために協力する事の大切さに気付いたり、協力する事で共に自分らしく生きられる社会の実現が可能であることを理解したりすることができた。

また、今回、気づいたこととして、よく知っているはずのことでも、やはり人に伝えるためには写

真や実物等があったほうがよい。そして活動シートでは、そのシートで何をしたいのか、的を絞ったほうがよい、という2点があげられる。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

2012年6月に来日した15歳の子どもが未就学であったが、教育相談から連絡を受け、8月から当事業の補習教室に迎え入れ、9月から地元の学校に行くことになった。当NPO会員が他の地区のボランティア教室でもこの子どもの日本語指導や生活の相談にのるなどして、来日6か月にして、無事、県立高校に合格させることができた。親が長く不在の時も、食が満たせる生活が送れるよう買い物などの表現を教え、自立の道を歩めるよう支援できた。

母国での教育に空白のある子どもに、中学卒業後の進路として、フリースクールを紹介したりいくつかのボランティア団体や日本語指導者の連携で、その子が働きながら学び、近い将来、高校に進学できる道を示したりすることができ、日本での生活に希望を持たせることができた。

(5) 改善点、今後の課題について

「生活者としての外国人」の当事者である外国人指導者とともに学ぶ日本語指導が今回の一つのテーマであったが、年少者の日本語教育は日本語の上達と学力向上を二大目標とする。外国につながる子どもたちは、将来、多文化共生社会の貴重な人材となる。その子どもたちが短期間にリテラシーを持った市民に成長できるよう、専門的な知識や技術を持ち、教育全般を見通すことができる支援者を養成することが課題である。

また、講座を通して母語の重要性を学び、母語教材の必要性を強く感じたが、日本語初期指導の教材は多いものの、中高生が教科学習に連動できる教材はまだ少ない。そうした教材作成も課題であろう。

さらに、今回の研修のみに終わらず、時代と共に変わるニーズに合わせた研修を継続する必要がある。現場から必要性を感じたことを反映し、すぐに研修の場を持って学び、考え、結果を共有できるような取り組みが必要である。

(6) その他参考資料 添付：講座アンケート抜粋

- ・弁別的言語能力について興味を持ちました。これからの講座が楽しみです。
- ・まとめに書かれていたことが、新しい発見でした。外国につながる子どもたちを「将来的な多文化共生を担う人的リソース」という観点では見ていなかったと思います。今、困っている子たちの力になりたいという思いが、将来的に金の卵を育てることにつながれば嬉しいな、と感じました。
- ・生徒の学習事項の定着に向けての、反復学習の方法：法則→意味(PCを使って)→聴解→読解などの方法が、大変参考になりました。
- ・教えることは、一方的に述べるのではなく、考えさせたり、発言させたりできるようにするしかけを作って学習者からの話を引き出すことだと改めて感じた。
- ・災害の時、日本語で何を伝えたらいいかを考えさせられた。
- ・一人ひとりの子どもの個性、力に応じた、そして興味を持つ勉強するには、やはり工夫した手作りの教材がよいと強く感じた。工夫された素晴らしい教材に驚いた。「中学・高校生の日本語支援を考える会」の作成した教材は、スゴイ！

・「見えない」ことをそれぞれの立場で、分析、整理されていて、とても分かりやすかった。神奈川と大阪の状況の違いがあるが、子どもの調査に基づいた調査で「ストラテジー」は私の実感とも一致した。

・「見えない子ども」という言葉があることで、その子どもたちの存在がはっきりと見える(意識化)できるようになった。見えないことには支援もできないということがよく分かった。

・外国につながる子供たちにとって母語が国際社会に通用する資本になるという考え方、また彼らにとってアイデンティティがひとつの国民性に固定されるものではなく場によって自ら選びとるものという考え方が大変参考になりました。

・エコマップに興味を持ちました。今後ケーススタディや情報共有、学校との連携においても使ってみたいと思う。

・自分と生徒の間にできた関係をスタートに、生徒の周りにより豊かな人間関係を築くことが自立へと向かうということ。

・日頃、国際教室の担当者としていかに他の教員に目に見える形で、支援の必要性を訴えられるかを考えてきました。明日からチェックリストなどを活用させていただきます。

・学習計画表、HP に載せて欲しいです。学校に置き、職員・支援者で共有できると各担任も行動し、管理職も支援してくれるのではないのでしょうか。日本語支援の先生たちも仕事がしやすく、全体の能率が上がるように思います。

・ワークショップで同じ経験で苦労されている他の先生方と情報や実践例を交換し勉強になりました。

・現状から行政まで、日本語指導から心理面のサポートまで、全体の支援から具体的な事例まで、情報量が多くしかもそれぞれがわかりやすく話していただきとても勉強になりました。

・「にほんごだいすき」を使ったことがないですが、紹介していただいて使ってみたいと思うようになりました。教材の工夫について講師の方とみなさんから貴重な意見をたくさんいただきました。

・後半にご教示下さった助詞の指導方法については、母語として自分が身につけてしまっているので、体系的に教えるのがとても難しいと思ったが、多くの参考になるお話を聞けてありがたく思う。

・ワークショップをきっかけに他の地域の支援者さんと仲良くなれてとても良かったです。先生のファシリテーションがよかったおかげだと思います。

・リライト教材を使って、「クラスと同じ勉強をしているのだ」という意識を生徒に持たせ、学習意欲を喚起することの大切さがわかりました。実践してみたいと思います。

・リライト教材という考え方を初めて聞いたので、全てが新鮮でした。

・講師の著作を以前から読んでいましたが、教材の「ねらい」と「めあて」の違い等、実際に講座を聞いて納得できたことが多く、勉強になりました。

・午前に理論、解説、午後にその実践という構成はとても良かったです。

・すぐに自分の授業でやってみよう、と思える内容でした。

・多くの現場の先生方の実践例を交換できるような内容をこれからもお願いします。

・小中の連携、小学校時代からしっかりとした日本語指導がいかに大切かと感じた。

・進学も就職もできない子どもたちの行先は？非常に心配…

・多くのお子さんやご家庭でそれぞれの問題を抱えていることがわかりました。お子さんの人権・個性を大切にしながら生活を支えていくことを考えさせられました。

・子どもと親、両方の面から問題を考えることができました。先生の話がわかりやすく、とても勉強になりました。

・日本語を母語としない保護者の子供に対する様々な心配や言語の不安など、とても良く理解できました。今後に活かしていきたいと思います。

・リライトの実践、参考になりました。

・文章のリライトはそんな簡単にできないことです。子供の立場から考えて、わかりやすい、読みやすい、必要な情報を伝えることがすごく大事です。

・学ぶ合うことの大切さと効果を感じとることができました。

・直接的な教え方ではなく、いろいろな日本語を教えるときのヒントを得られ、とても良かったと思います。特に、子どもの「わからない」を見極めようとする過程が大事と認識しました。

・「バイリンガル」「BICS」「CALP」など言葉からいろいろ新しい知識を勉強しました。これからもっとこの分野に関する知識を勉強したいと思います。おもしろかったです。

・バイリンガルの定義を図式化されていたのがわかりやすかった。学校の先生にわかりやすく伝える手段(濁音や「つ」のまちがいなど)がクリアになりました。

・理論的なことを具体的な例を用いながら説明してくださり、たいへん分かりやすかった。

・バイリンガル指導者として、知っておいたほうが良い知識が満載されていて、現場で起きることが整理できた。

・住む町を調べ、書ききれないほどの魅力がたくさんあることを知り、見直しました。リライトを通し、言葉の意味など新たに日本語を知った思いがします。学習の遅れがちな児童が日常的に使えるので、利用していきたいです。

・何度も修正しましたが、まだまだだなあと痛感しました。このような機会を頂き、ありがとうございます。

・一人一人の発表にいろいろな見方、発表があり、大変役に立ちました。特に外国人日本語指導者の方の発表のユニークさとがんばりに驚きました。

・実例をもとにコースデザインをしてみて、長いようで意外と短い1年間をどう効率良く教えるかをもう一度考えさせられました。

・質の高い講座で大変有益な研修で、外部からも快く迎え入れていただき、大変感謝しております。日本語指導の基礎を確認することができ、自信が持てるようになり、自分自身のアイデンティティも強化されたように感じます。

・毎回ユニークな研修会で大変良い勉強になりました。この講座の受講を通して自分の授業を振り返り、改善を図ろうと思っています。ここで学んだことを今後の活動に活かしていきたいと思っています。

・各種ワークショップがとてもためになりました。準備が大変だったと思います。感謝いたします。

・どの講座も大変勉強になりました。いろいろな方とお話できて、知り合うことができて、とても良かったです。今後も今回を同じようにいろいろな方と知り合えるような形で続けていただければと思います。